



生命保険文化センターによる金融教育への取組み

公益財団法人 生命保険文化センター

少子高齢化・人口減少等の構造変化やライフスタイルの多様化等が進行し、あらゆる世代において、一人ひとりが金融リテラシーを向上させ、主体的に生活設計を行い、自助努力や共助による生活保障の準備を行うことの重要性が高まっている。加えて、新型コロナウイルス感染症の経験、自然災害の頻発や激甚化、経済環境の変動等により、リスク全般に対する国民の意識と社会保障制度への関心が一層高まっている。このような社会環境の変化にあわせて「生命保険」に関する金融リテラシー向上を図るために、当センターにて実施している主な金融教育への取組みについて紹介したい。

1 生命保険文化センターについて

当センターは1976年に設立され、学校教育活動を含む「消費者啓発・情報提供活動」、生命保険に関する各種研究会の運営・研究助成等の「学術振興事業」、生活保障に対する意識や生命保険の加入状況等の「調査研究活動」の3つの活動を柱とし、消費者と生命保険業界の相互理解の促進を図るため、橋渡しの役割を担っている。「消費者啓発・情報提供活動」として、中学生・高校生・大学生等といった学生・生徒や若年層から高齢者層といった社会人、ならびに指導的な立場である教員や消費者からの相談対応を行っている消費生活相談員を対象としている。

2 学生・生徒向けの取組み

(1) 無償による講師派遣の実施

学校からの依頼により、教員の協力を得て授業時間の一部を利用して、当センター職員が講師となり無償で講義を行う「生命保険実学講座」を実施している。Zoom等を活用した双方向によるオンライン講座や講義を収録した動画を提供するオンデマンド講座も実施している。中学生から大学生を対象とした「生命保険実学講座」

として、2023年度は全国245校にて661回実施した。

成年年齢引き下げにより、中学生や高校生を取り巻く社会環境が大きく変化している。新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）により、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」という点が重視され、実際の生活で活用できる知識や技能、未知の状況にも対応できる思考力や判断力など、社会に出てから学校で学んだことを生かせるような教育が求められている。

中学生・高校生向けの講座においては、主に家庭科、社会科・公民科、総合学習の時間に講師派遣の依頼をいただいている。家庭科では、「生活設計とお金」をキーワードに、起きるかもしれないリスクに備えることの大切さを理解するために、リスク管理の手段として土台となる公的な保障として社会保険について理解したうえで、自分の置かれている生活環境にあわせて、社会保険で足りない部分があった場合に自分で備える、その一つの手段として「生命保険」があり、「生命保険」が生活において果たす役割や特徴を伝えている。

社会科・公民科では、「人生100年時代」をキーワードに、今後の日本の社会において、社会保障費の増加の可能性等、どんな問題が起こりうるか考え、社会保障制度ならびに預貯金や民間の保険といった「自助・共助・公助」について内容を理解し、適切な組み合わせについて自分なりに考察することで、自助の一つの手段として「生命保険」が果たす役割や特徴を伝えている。総合学習の時間では、キャリア教育に絡めた外部講師による講演の一つとして、依頼いただく機会が多い。

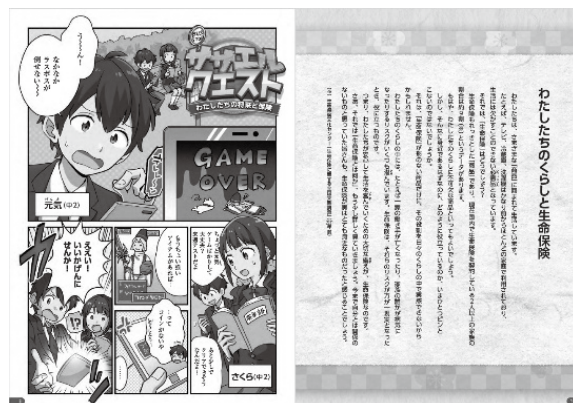
大学生向けの講座においては、「生活設計とリスク管理」をベースに、生命保険の基礎知識や年金、医療、介護といった専門的なテーマについても実施している。また、アクティブ・ラーニングを取り入れた講座も行い、生活設計・生活保障教育の更なる充実に取り組んでいる。

受講いただいた学生・生徒からのアンケートには「生活設計やリスクに備えることの大切さについて学ぶことができ、自分の将来について考えるよい機会となった。」「必要な備えは人それぞれなので、生活設計をしっかりと考えることは大切だと思った。」等、自分の人生について考える良いきっかけになったという主旨の感想が多く書かれている。

(2) 学校教育用副教材の無償提供

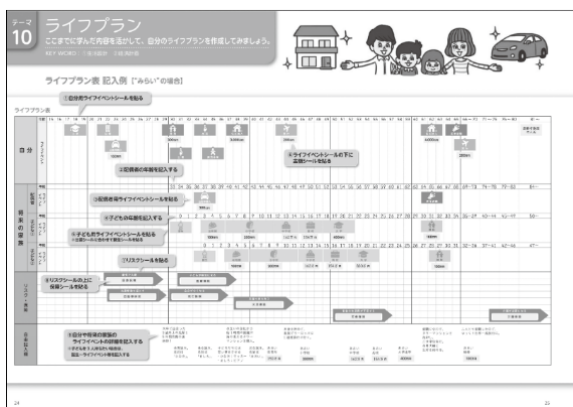
当センターでは、各教科の先生方と懇談会を行い、学校教育用副教材も作成している。冊子の副教材として、中学生向けには、マンガで生命保険について紹介した「生命保険って何だろう?」を提供している。2023年度は、53,546部を提供した。また、高校生向けとしては、アクティブ・ラーニングの要素が入った、生活設計に使えるワーク&データ集「君とみらいとライフプラン」を提供している。生徒用ワークブッ

クには、ライフプラン表が付いており、シールを貼って楽しみながら、生活設計について考えることができる副教材となっている。2023年度は、127,329部を提供した。



生命保険文化センター
「生命保険って何だろう?」(中学生向け)





生命保険文化センター
「君とみらいとライフプラン」(高校生向け)

その他、中学校・高校向けに家庭科向け、社会科・公民科向けとして、編集可能な状態で当センターホームページよりダウンロードができるPowerPoint副教材を提供している。先生方が普段利用している資料に、スライドデータを自由に差し込んだり、一部引用するなど、自由度が高い教材であると使い勝手が良いという先生方からのご意見をもとに作成した。少しでも空いた時間に「生命保険」について、気軽に授業で触れていただける機会を作ることが重要だと考えている。

(3) 中学校・高校における「生命保険」の取り上げ方

各科目によって特徴はあるものの、共通点としては、「生命保険」だけを単体で教えたり、学ぶのではなく、各科目の生命保険以外のキーワードと結び付けていくことが重要であると考えている。社会科・公民科では少子高齢化や社会保障制度、家庭科では生活設計やお金を切り口に、自助・共助・公助やリスク管理について学び、自分でリスクに備えるための一手段として「生命保険」について取り上げている。「生命保険」に関する金融リテラシー向上を図るため

に、生命保険実学講座や副教材を活用いただき、限られた授業時間の中で「生命保険」について気軽に授業で触れていただける機会を今後も多く作っていききたい。

3 教員向けの取り組み

生活設計やリスク管理に対する先生方の知識を深めていただくことを目的に、2006年より毎年、中学校・高校教員を対象としたセミナーを開催している。会場による参加とZoomによるオンライン参加を可能としたハイブリッド開催とすることで全国各地から参加可能となり、2023年度は会場参加・オンライン参加合計で137名の先生方に参加いただいた。セミナーでは、大学教員による基調講演や家庭科・公民科教員による授業実践報告、セミナーに参加いただいた先生方によるグループ別情報交換会を実施している。

また、限られた授業時間の中で、生活設計ならびに社会保険や民間保険といったリスク管理について授業で触れるにあたり必要となる周辺知識や副教材の具体的な活用事例等を解説し、すぐに授業で活用いただけるよう、各地の教員勉強会等への無償による講師派遣を実施している。

4 最後に

各種教育活動については、学生・生徒に実際の生活の場で、あるいは将来社会人となって生命保険と向き合ったときに、適切な活用判断ができるよう実践力を身につけてもらうことを目的としている。各対象層の特性に応じて、講師派遣の実施や副教材の提供、セミナーの開催等により適切な生命保険の知識の付与と理解の向上に向けた活動を推進していきたい。